

令和7年度第2回第21回立川市史編さん委員会議

会議録（要約版）ホームページ公開用

開催日時 令和8年3月27日（金） 午後3時から5時

開催場所 たましんRISURU（リスル）ホール 第2会議室

出席者 [委員] (◎委員長、○副委員長、50音順、敬称略)

大友 一雄、小林 尚子、◎白井 哲哉、杉浦 早苗、鈴木 功、豊泉 喜一、
○檜崎 茂彌、保坂 一房、和田 哲

[事務局] 文化スポーツ部長：奥野 武司、令和7年度市史編さん室長：白井 貴幸、

令和8年度市史編さん室長：福邊 淳、市史編さん係長：新藤 博、

職員：鳥越 多工摩（先史部会担当）、朝比奈 新（古代・中世部会担当）、

武田 真幸（近世部会担当）、高野 宏峰（近代部会担当）、渡邊 皓太郎（現代部会担当）、

鈴木 啓太（図像・資料整理班担当）、福住 和弥（市史編さん広報紙担当）

[傍聴者] なし

※会議は原則公開とする。

<資料一覧>

- ・資料1 刊行計画（裏面）
- ・資料2 専門部会活動報告及び活動予定について
- ・資料3 令和7年度新編立川市史の刊行について
- ・資料4 令和7年度市史編さん関連講演会及び企画計画について
- ・資料5 令和8年度市史編さん事業予算について
- ・資料6 市史編さん関連講演会の今後の計画について
- ・資料7 市史編さん広報紙「たちかわ物語」計画表について
- ・資料8 通史編（下巻）の構成案等について
- ・資料9 第20回 立川市史編さん委員会会議・書面開催に向けた委員からの意見
- ・資料10 砂川歴史資料コーナー（砂川学習館）のリニューアルについて

<あいさつ等>

文化スポーツ部長より開催あいさつ

第6期市民公募委員会の開催及び市民公募委員2名の再選

第6期市史編さん委員会 委員長および副委員長の再選（互選）

<報告>

1. 刊行計画の変更について 資料1

事務局より、令和8年度に刊行予定の『新編立川市史 民俗・地誌編』（以下、『民俗・地誌編』という）について、

編集体制が整わないという理由から刊行を令和9年度に1年間延期となったことが改めて報告された。

2. 専門部会活動報告及び活動予定について 資料2

事務局の各部会等（先史、古代・中世、近世、近代、現代、民俗・地誌、図像・資料整理班）担当職員より、資料のとおり活動報告と活動予定についての説明があった。

なお、令和8年2月から3月にかけて市役所で開催した市史編さん関連展示について、委員より以下の意見があった。

（意見） 歴史民俗資料館でも展示したり展示パネルの貸し出しを行うなど、ほかにも活用できるようにしてほしい。

3. 令和7年度新編立川市史の刊行について 資料3

事務局より、令和8年3月31日に刊行予定の『近世2』について、3月24日に納品がされたとの報告があった。

4. 令和7年度市史編さん関連講演会及び関連展示について 資料4

事務局より、資料の【評価と課題】から内容を抜粋して報告があったのち、委員より感想が述べられた。

（感想）

- いままでで一番の来場者数であった。終了後の質疑応答も活発で、参加者の関心の高さが伝わってくる会であった。市史編さん事業が終わったあとも砂川家の調査は続けられるということだが、ぜひ継続していただきたい。
- とても楽しかったという印象であった。立川市民の歴史に関する興味が高まっていると思った。
- 鷹場と砂川村の関係についてわかったのが、一番よい話だった。
- 講演会に関するアンケートには、「砂川家当主のあいさつに感動した」という感想があった。
- 講演会当日、中央図書館に講演会の告知コーナーがあり、おもに鷹場についての講演を行った登壇者の関連書籍が並んでいたのも、市史編さん室の努力や関連施設の協力のたまものだと思う。

以上の感想を受けて、事務局より本講演会への広報活動等についての報告等があった。

- 市内モノレールの駅舎3カ所に講演会のポスターを貼らせてもらったが、効果は大きかったと思う。
- アンケート内容の感触としては、来場された市民の方々は『広報たちかわ』をご覧になったという声が多かった。「講演会のチラシとポスターをご覧になった」という方も多かったが、ご覧になった場所の回答までは追えなかったため、今後の課題にしたい。
- 令和8年度以降は『通史編』の執筆・刊行があるので、ますます関心は高まると思われ、当編さん室の成果がまよりつつあるということを周知しながら皆さんの関心を集めたり、披露する機会の充実に努めていきたい。

5. 令和8年度市史編さん事業予算について 資料5

事務局より、資料についての説明があった。

6. 市史編さん関連講演会の今後の計画について 資料6

事務局より、以下の説明があった。

- 令和8年度は近代・現代にかかわる『通史編』下巻の刊行を予定しているので、それらの内容に関連した講演を行っていただくことができ、他の自治体史に詳しい方を講師に招きたいと考えている。
- 令和9年度については、公文書の活用等について講演をしていただける方を招きたいと思っている。
- 最終年度となる令和10年度は、事業の総括をテーマに市史編さん事業でどのようなことがわかったのかを委員長

や部会長全員で発表していただくなど、シンポジウムのな講演ができればよいと思っている。

■資料6の①から④は、これまでの編集委員及び編さん委員会で提案いただいた意見を記載。

■④については、事業終了後の課題等について公表できるタイミングがあれば、市長に登壇いただくことを考えている。

■資料裏面には、これまで各部会の先生方に講演をしていただいた実績を記載。

7. 市史編さん広報紙「たちかわ物語」計画表について 資料7

事務局より、「たちかわ物語」刊行計画表の22号から27号に記載した企画について以下の説明があった。

■計画表の22号から27号が今後刊行する予定だが、各号の記載内容はこれまでの会議等で提案いただいた意見をすべて仮で入れた事務局案である。

■22号の特集1では「砂川家の調査の成果報告」と令和8年3月1日に開催した講演会の報告について、紙面を7ページ確保して市民等に周知したいと考えている。特集2の関連展示についての報告も掲載を考えている。

■23号については、市立中学校の開校特集と「立川市内の市民歌」について特集したいと考えている。

■24号、26号については、各前年度の3月に開催予定の講演会報告を掲載すべきと考えている。

■24号では、「米軍立川基地返還50周年関連企画」を掲載できないかと思っている。

以上について、委員より以下の要望や意見があった。

(要望)

■23号に記載の「立川小唄」については、まとまった資料がある。SPレコード（毎分78回転で再生される初期のレコード盤）で立川関係の歌があり、小学校、中学校の校歌は結構おもしろいと思う。

■立川飛行場を出発した朝日新聞社の「神風号」の応援歌があり、音源も残っているのでおもしろいと思う。神風号がヨーロッパへ飛行するにあたり、立川飛行場から出発した。

■高島屋の近くに立川小唄の歌碑かなにかがあるが、どのような歌なのかは知らないで、音源をインターネットで聞くことができればよい。

■昭和7年に吹き込んだ「立川小唄」のレコード盤はある。前口上があってから「立川小唄」が入っていて、全部で27番まである。立川教育振興会で「立川小唄」の振り付けを踊れる芸者さんを八王子の芸者さんのところへ連れて行き、芸者さんたちに「立川小唄」を踊ってもらったものを収録した映像もある。

■Y o u t u b eを検索したら出てきた。歌碑の除幕式のときにステージをつくって踊ったようである。企画のテーマにするには十分ではないか。

■芸者さんが踊りを全部教わって再現できた。立川のまちが「空の都」といわれた時代をなんとか残そうと、いまのアイムホールの近く※に「立川小唄」の記念碑（歌碑）も建った。

※アイムホールの近く…「立川小唄」の記念碑（歌碑）は、2017年5月14日に市制五十周年記念 憩いの場に建てられた。

8. 立川市史デジタルテクノロジー活用方針について（資料なし）

事務局より、以下の報告と説明があった。

■デジタルアーカイブの構築については、予算や人員等について改めて庁内で検討を行った結果、『通史編』『普及版』のデジタル公開を含めて令和10年度以降に先送りとする事が決定した。

■予算見積では、数百万円の補助金を初期費用に見込んでいる。事業者へ委託してデジタル公開を行うとランニングコストがかかるため、1、2年の間に補助金をデジタル公開の初期費用に充て、その後はランニングコストというイメージはできるが、いずれにしても11年度以降にかかるようなスケジュール感でいる。

■デジタル化は、市史編さんの成果をいかに多くの人に知っていただき、立川市の歴史やまちのルーツに関心を持っていただくための入口となる事業であるため、市内の中学校の授業でも積極的に使っていただけるような子ども向けのバージョンや、噛み砕いた表現の『普及版』もしっかり検討したうえで有効活用できるデジタル化を考えているが、まずは市史の刊行を優先していきたい。

9. 通史編（下巻）の構成案等について 資料8

事務局より以下の説明があった。

〈資料8－①〉通史編下巻構成案について

■現時点における『通史編』下巻の構成案の確認をいただきたい。

〈資料8－②〉付録に予定しているDVDの内容について

■「通史編下巻付録収録映像一覧」の「選」と記載した右端列に、掲載したい優先順位の高いものから二重丸、丸、黒星の印を付けている。二重丸と丸が付いた動画の再生時間数は合計で88分となる。黒星から適宜選ぼうという段階である。右端列の※印は、権利関係が確認中のものである。事務局としては収録したいが、権利関係がクリアできればという条件付きである。（資料8－①参照）

■DVDの記録媒体の寿命について意見をいただいているが、現時点ではDVDで刊行し、加えてデジタルアーカイブなど、ほかの形態でも公開ができるよう調整しながら進めていこうと考えている。

〈資料なし〉カバーデザインについて

■『通史編』上巻・下巻及び『民俗・地誌編』の表紙デザインについて、8年3月19日の編集委員会議で以下の方向性が定まったので、改めて意見があれぼうかがいたい。

①『資料編』の題字や枠のデザインを踏襲していきたい。

②中央の色について、『資料編』は赤色や緑色を使っているが、それとは異なる色とする。

③各刊を象徴する写真を『資料編』と同様に用いる。

〈資料なし〉年表について

■編さん委員から「年表を付けてはいいか？」という意見があり、編集委員会議で議論したところ、『資料編』上巻・下巻の内容を踏まえる必要があるため、令和9年度刊行の『資料編』上巻の付録には難しいということになり、令和10年度に刊行予定の『普及版』に付ける、あるいは『普及版』の中に盛り込めるか否かを検討していく。

以上について、意見や質問等があった。

（意見） 『通史編』下巻だけではなく上巻の年表もないと違和感があるだろうし、『民俗・地誌編』にも年表を入れないとトータルな年表にはならないのではないかと。『通史編』上巻・下巻及び『民俗・地誌編』が刊行されないとページが確定しないため、年表はそれらの刊行後に付けることを考えていく。年表の重要性については、理解はし合えていると思うが、3冊が刊行されないと着手ができない。

（質問） 一覧表（資料8－②）にある059の概要の3行目に「大東亜戦争」と記されているが、この名称をそのまま使用するのはいまの時代にとっても合っていないと思う。

（回答） 映像データのテロップにその名称で入っているので、そのままの内容を文字に起こした。収録する際には、「当時の表現をそのまま使用している」などの注釈を付けることを考えている。

（意見） この動画は、過去に編さんした資料として『資料編』に入れるべきものであって、今後新たに市史をまとめる『通史編』に入れるものではないと思う。

（意見） 今後を考えると、DVDという媒体がこのあと残るとは思えない。そこに予算をかけるより、デジタル化に予算をかけるべきである。

(意見) DVDを付けることの意義やこうした意見が編さん委員会から出たことについて、部会に戻していただき、一度検討いただく必要があるかと思う。クレジットの表記については、資料として付けるなら問題はない。

(意見) 映像と音源もY o u t u b e等での公開を視野に、同じような扱いでやってよいと思う。

(意見) 編さん側の歴史認識が問われるので、これらの動画作品を『通史編』に入れるのかというところである。『資料編』なら全然問題はないが、そこは注意したほうがよい。

以上の意見を踏まえ、事務局で再び検討することとなった。

〈資料なし〉『通史編』の表紙デザインについて

(事務局) 「刊行物を並べてみたときに違和感がないように」とのことで、『資料編』と同一デザインで進めることになったことを了承いただきたい。

(質問) 立川市の色というのはあるのか？

(回答) 木や花はあるが、立川市の限定された色というものは聞いたことがない。紫色のような色調は市章では使われている。

(意見) 令和8年度の編さん委員会議で、「この色」というものが提案されることを期待したいと思う。

10. 市史編さん事業の進捗状況及び事業終了後の方針の諮問・答申について 資料9

事務局より以下の説明があった。

■市史編さん事業は平成27年9月に、前市長から編さん委員会に対して本事業を進めるための基本方針が諮問（しもん）された。それを受けて平成28年2月、編さん委員会から前市長に答申がなされた。それが現在の基本方針であり、本事業の始まりの経緯である。そこからスタートして10年が経つが、『近世2』の刊行をもって『資料編』12冊と調査報告書7冊の刊行が完了し、令和8年度からは『通史編』上巻・下巻、『民俗・地誌編』の刊行を控えている。

■本事業終了後の方針について、中間的なかたちで令和8年度に諮問・答申を行うべきだと事務局は考えている。答申のおおまかな内容は以下のとおりである。

①本事業の成果の検証と資料の今後の保存活用について

②『通史編』『普及版』のデジタル公開について

③砂川家の調査等を本事業が終了しても継続して最後まで行うことについて

（市史編さん室の名称が変わっても、その後継の課が必ず対応する）

■答申の作成にあたり、編さん委員会の委員と、専門的な見地をお願いする「市政アドバイザー」にアドバイスをいただこうと考えている。

■令和8年度末までには編さん委員会から答申をいただく。その間に編さん委員会を3回開催することを予定しているので、委員から意見をいただき、最終的に編さん委員会の名で市長が答申を受ける。

■令和7年度夏に書面開催となった編さん委員会において、各委員から意見をいただいたところ（資料9参照）、答申の内容につながる意見がかなり多くあった。（以下に一部抜粋）

- ・立川市史デジタルテクノロジー活用方針（案）について、動画も歴史資料として公開できるようにしてもらいたい。
- ・収集資料の保存・公開・公文書館機能を有する施設の設置が期待されます。
- ・砂川家の資料の調査の件ですが、編さん室が解散してしまったあと、その成果品となる刊行物は、市史の調査報告書として刊行されるのかどうか気になります。

以上について、要望や質問等があった。

(要望) 編さん委員会が終了したあと、企画などを提案しても手遅れで、なにも実らないかたちになることをよく聞いたりする。市長の諮問を受けての中間報告はあったほうがよいと思うが、そのうえで最終報告を出すことが好ましい。どうしたらよりよく市史編さん事業を後継できるか、よりよい体制をつくっていけるようにお願いしたい。

(回答) 市史編さん事業の後継や今後の体制づくりが非常に大事なことでないと認識している。市長以下、理事者も、貴重な資料を次の世代にどのようにつないでわかりやすく伝えていくか、それによって立川市に住んでいる方たちが改めてまちへの愛着を深められるか、そういうところにつなげてこそ市史編さんの意義があると考えます。令和10年度までの市史刊行後も、大事な砂川家の調査は物理的に続けざるを得ないぐらいのボリュームになっているので、調査をしながら引き続き公文書として残すものと文化財として残すべきものなど考え方の整理なども、令和8年度の諮問・答申の中で皆さんから意見をいただきながら検討していただき、答申として市に返していただけるとありがたいと考えている。

(質問) この編さん委員会は、市史の刊行が完了したらいったんは終わりだが、市史編さん室をずっと続けてもらいたいと思っている。今回の新編立川市史の刊行が終了したら、20年、30年はまた経過すると思うし、この事業のことを知っている人はやはりいなくなってしまうと思うので、市史編さん室が「刊行物を制作する」という事業とは別に、ずっと続けて残る機関になってほしいと思う。

(回答) 現時点では、令和10年度までに市史を刊行するための組織として市史編さん室は残る。ただ、刊行した市史をよりわかりやすく伝えていく、あるいは広く多くの方に知っていただくための組織は、「市史編さん室」という名称ではないかもしれないが、然るべき組織を残して然るべき仕事をしていく必要性はあるということはわれわれも認識しているし、いまの内容を編さん委員の意見として返していただきたい。

<その他>

1. 砂川歴史資料コーナー（砂川学習館）のリニューアルについて 資料10

事務局より、砂川学習館のリニューアルについての報告と、令和7年度末に開催した市史関連展示を本施設でも開催する計画※についての説明があった。

※市史関連展示：令和8年8月5日（水曜日）から10月20日（火曜日）まで砂川学習館にて開催予定。

このあと委員より、立川市立第一小学校の「立川市民科」の授業において、戦時中の立川について児童たちに語る機会があり、児童たちは地域の歴史をもっと知りたいと考えて「すごろく」をつくったところ、その様子が子ども新聞各紙や『広報たちかわ』などに掲載されたという報告があった。

<終了 午後5時00分>